

## 赤ちゃん人形を「抱く・あやす」という体験から得られる学び

中野 幸子\*・泉 柚岐

大阪信愛学院短期大学

---

*Human and Environment* Vol. 12 (2019)

Learning from an Experience that a Person Holds and Pacifies a Baby Doll

Sachiko Nakano and Yuzuki Izumi

Osaka Shin-Ai College, Japan

高大連携教育の一貫で小児看護学の授業の機会を得た。そこで医療看護コースの女子高校2年生33名対象に、赤ちゃんと母子への関心度をはかる質問紙を配布し単純集計した。また、赤ちゃん人形を「抱いてあやす」という体験(2分間)後の学びを質的に分析した。結果、女子高校生は、赤ちゃんへの関心はとても高いことがわかったが、一方で、母子の姿をみると肯定的イメージ(幸せ・楽しい・明るいなど)は低下した。また、赤ちゃん人形を抱くと、人形の重さに最も敏感になり、続いて、適切な抱き方とは何かに関心が向いた。さらに、生徒が持つ母親像が去来し母性意識が高まることがわかった。また、あやすとは、生徒にとって赤ちゃんを揺らすことであり、赤ちゃんへの語りかけは難しいと感じた者が多かった。一体の人形からでも十分なシュミレーション教育の効果が得られた。

キーワード：赤ちゃん人形・抱く・あやす・シュミレーション教育

---

### 1. はじめに

近年のわが国の出生率低下は、きょうだいのみならず地域全体の子どもの数の減少をきたし、若者が身近に幼い子どもを見かけたり触れ合う機会を激減させている[1]。

小児看護学実習において、看護学生が受持つ対象は、多くは予備力が小さく急変しやすい乳幼児期の子どもである。ある年、指導教員が見守る中、看護学生は受

持ち患児の母親から児の抱っこを勧められた。しかし、学生は後ずさりをしてそれを頑なに拒んだのである。想定外の学生の反応に大変驚いた記憶がある。改めて、子どもを「抱く」ことの意味について考えさせられた。

「抱っこ」や「タッチング」など身体接触の意義と効果についての先行研究は散見している。例えば、新生児への直肌の抱っこの「カンガルーケア」は、看護ケアとして、児の体温や呼吸の安定、哺乳力の増加につながることや、また、愛着形成と母親側の対児感情に有効であることを明らかにした研究がある[2]。また、竹澤らは、「抱っこ」と同じ身体接触である「抱きしめる」行為の効果では、母親や父親ではない保育士による積極的な「抱きしめ」は園児らに協調性や、落ち着きをもたらす不安に効果があることを明らかにしている[3]。一方、汐見らは、乳幼児が抱くと嫌がったり抱かれたがらない「抱かれ下手」の子どもが増え、保育

---

\*大阪信愛学院短期大学看護学科  
〒538-0053 大阪市鶴見区鶴見 6-2-28  
E-mail: nakano@osaka-shinai.ac.jp

受付：2019年5月28日 受理：2019年7月30日

©2019 大阪信愛学院短期大学

表1 赤ちゃんに関するアンケート調査

赤ちゃんに関するアンケート	
学籍番号	学生氏名
身近な赤ちゃんについて、お尋ねします。各問にあてはまるものに○をつけてください。必要な事項は記述してください。	
*赤ちゃんとは、あなたがもつ全般的なイメージの赤ちゃんです。	
*家族に限らず、道端や駅、公園でみかける赤ちゃんについてお答えください。	
*今回の演習は、モデル人形で、定額前の赤ちゃんです。	
問1	赤ちゃんに関心がありますか
	a.とても関心がある    b.どちらかと言えば関心がある c.どちらかと言えば関心がない    d.まったく関心はない
問2	赤ちゃんを抱いたことがありますか
	a.頻繁に抱く    b.ときどき抱く    c.ほとんど抱かない    d.まったく抱いたことがない
問3	赤ちゃんをあやしたことがありますか。*あやすとは、声をかけ話しかけたり、触れたりなど赤ちゃんに関わること。
	a.頻繁にあやす    b.ときどきあやす    c.ほとんどあやしたことがない d.まったくあやしたことがない
問4	あなたは、赤ちゃんをあやしたり、関わったりすることについてどう思いますか。くわしく述べてください。
問5	もし、電車の中で母子が、あなたの隣に座っていたら、その母子に対してどのような思いを抱きますか。
	a.肯定的イメージ（幸せそう・楽しそう・明るい雰囲気など） b.否定的イメージ（つらそう・大変そう・暗い雰囲気など） c.関心なく何も感じない d.他に、感じるものがあれば何でも記述してください。

士の約 20-25%（有効回答数 839 名）が抱っこに違和感を感じるという報告もある[4]。「抱っこ」は、抱く側と抱かれる側が呼応することにより成立し関係性が発展していくものといえる。このように身体接触の効果や母子関係への影響に着目した研究は多いが、「抱っこ」する側がそれをどのように体験しているかについての研究は見られない。

そこで、今回、高大連携教育の一貫である看護医療コース在籍の女子高校生 2 年生を対象に小児看護学の授業をする機会を得た。赤ちゃん人形を「抱く・あやす」女子高校生の体験の内容を分析することにより教育的示唆が得られたのでここに報告する。

ところで、平成 20 年 12 月の中央教育審議会の答申「学士課程教育の構築に向けて」において、文部科学省は、大学の初年教育等の充実に向けた支援として、高校と大学の接続の改善をもとめ、高等学校と大学は、選抜だけでつながっていたこれまでの関係から、客観的できめ細やかな学力の把握とそれに基づく適切な指導による生徒・学生の学力向上のため、共に力を合わせて取り組む関係への転換が求められている[5]。

## 2. 研究方法

研究対象は、A 高校医療看護コースの 2 年生女子生徒 33 名で、研究期間 2018 年 12 月～2019 年 3 月である。本研究者が行った高大連携教育の小児看護学の授業テーマは、子どもの「ことばの発達」であった。60 分間 1 回限定の授業であった。授業開始前に、赤ちゃんに関する質問紙を配布した。表 1 に示すとおりその内容は、「赤ちゃんへの関心度」「赤ちゃんを抱いた経験」「赤ちゃんをあやした経験」「身近な母子へのイメージ」についての質問を 4 件法で尋ねた。授業は、生命の発生から乳児期までの身体的成長発達について画像で説明し、赤ちゃんの泣き声から喃語、初語へと意味をもつ言葉が生まれ、幼児期後期に言葉の獲得に至ることを 30 分間講義をした。その後、赤ちゃん人形を抱きあやすという体験を実施した。生徒ひとりで 2 分間赤ちゃん人形を抱き、その間、語りかけあやすことを課題とした。また、その様子を観察する立場も設定した。体験後 10 分間の時間をとり、赤ちゃん人形を抱きあやした時の思いと自分以外の他の生徒の様子を観察した内容をレポートしてもらった。その後全員で学びを共有しあった。

分析対象は、授業開始前実施した質問紙と生徒が自由記述したレポートである。自由記述のレポートは一つの意味をなす文脈で区切り、類似の意味内容をカテゴリ化した。カテゴリ化にあつては研究者間で協議し合意を得ながら進めた。

赤ちゃん人形は、身長 50 cm 体重 3kg の新生児対応のものを使用し、赤ちゃんとは、新生児から生後 1 年未満の乳児とした。

倫理的配慮として、依頼書を用いて女子生徒の在籍する A 高等学校に研究協力を要請し承諾を得た。本研究の協力は自由意志であり、個人及び施設名が特定されることはないこと、科目評価の対象外であること、また、収集された個人情報には研究以外の目的で使用しないことを説明した。尚、本研究者が所属する倫理委員会の承認を得て実施した。

## 3. 結果

授業のはじめに実施した 4 件法の質問紙の「赤ちゃんに関するアンケート」の結果を、図 1 に示す。赤ちゃんへの関心が「ある」と「ない」では、それぞれ 88.1%（30 名）と 11.6%（4 名）であった。赤ちゃんを抱いた経験が「ある」と「ない」では、それぞれ 41.1%（14 名）と 58.7%（20 名）であった。あやす経験の「ある」と「ない」では、それぞれ 35.2%（12 名）と 64.6%（22 名）であった。身近に見かける親子の母子へのイメージでは、肯定的イメージ（幸せ・楽しい・明るいなど）が 58.8%（20 名）で否定的イメージ（つらい、

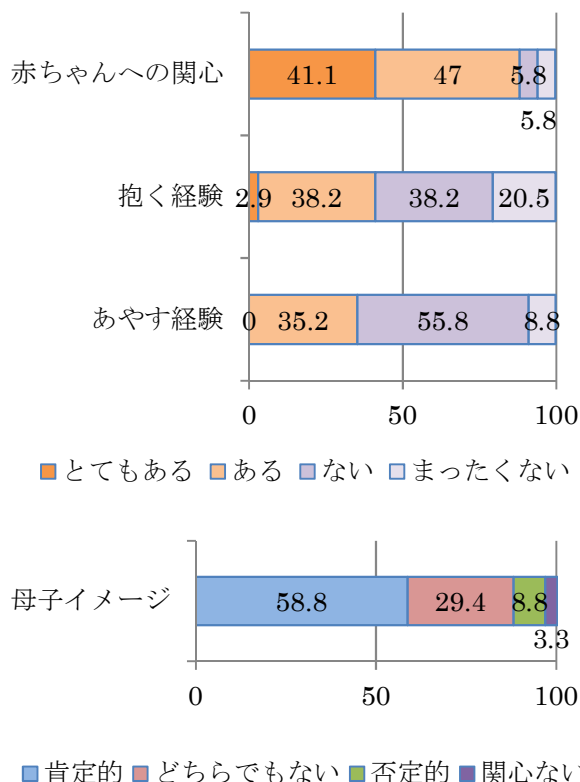


図1 赤ちゃんに関するアンケート

大変、暗いなど)は8.8%(3名)で、両方が29.4%(10名)で、関心ない3%(1名)であった。

「抱く・あやす」体験後に自由記述したレポートの内容は、表2に示した通り、全語彙85の意味内容を抽出した。3つのカテゴリ【抱く(56)】【あやす(19)】【学び(10)】に分類できた。【抱く(56)】では、サブカテゴリとして《人形(41)》《抱き方(8)》《母親の気持ち(7)》が抽出された。

その内容で最も多い《人形(40)》では、<重い(20)><かわいい(12)><リアル感(9)>が抽出された。【あやす(19)】では、サブカテゴリとして《(声・言葉・話)かける(14)》《ゆらす(5)》で、最も多い《(声・言葉・話)かける(15)》では、その内容にはポジティブなく話かける(2)>とネガティブなくわからない・できない(12)>が抽出された。【学び(10)】では、《体験の肯定(3)》と《将来のこと(7)》が抽出された。

「抱く・あやす」について、他の生徒の体験を見学したレポートの内容は、表3に示した通り、全語彙数74の意味内容を抽出した。6つのカテゴリ【抱く(31)】【あやす(15)】【母・ママ感(10)】【楽しい(8)】【笑顔(6)】【その他(4)】に分類できた。【抱く(31)】では、サブカテゴリでは《抱き方(12)》《思い(10)》《重い(9)》であった。【あやす(15)】では、《ゆらす(9)》《(声)かける(4)》《思い(2)》が抽出された。

## 4. 考察

### 4.1. 女子高校生の赤ちゃんに対するレディネス

約9割の女子高校生は、赤ちゃんへ強い関心があることがわかった。その一方で、身近に見かける母子の姿からは、否定的イメージ(つらい、大変、暗いなど)こそ少ない8.8%(3名)が、肯定的イメージ(幸せ・楽しい・明るいなど)は、約6割の58.8%(20名)に留まり決して多いとはいえない。また、肯定否定の両方のイメージをもつ生徒は、約3割29.4%(10名)いたことから、女子高校生にとって、身近に見かける母子は、つらい、大変、暗いなど否定的なイメージに容易に変わりうるともいえる。女子高校生の赤ちゃんへの関心が高かったことに安堵はしたが、母子の姿からは、赤ちゃんを世話する母親の存在が際立って意識化されこの結果になったことは興味深い。

平成27年版厚生労働白書によれば、子どもが欲しくない理由として最も多いのが「子育てするは大変そう」と回答した女性は54.4%いるうえに、0-15歳の子どもがいる人を対象にした調査では、子育ての不安や負担について、母親の77.3%、父親の67.4%が、「とてもある」「どちらかといえばある」と回答している[6]。結婚や子育てがまだ先にある女子高校生も、現代の子育ての潮流の中にいるのかもしれない。

また、約6割の女子高校生は、赤ちゃんを抱きあやした経験があった。予想外に多くの生徒が体験していた。今回、いつ、誰を抱きあやしたのかについての設問はしなかったが、近所の子どもとか兄弟姉妹を抱いたと回答していたことから、幼い時に抱きあやした体験が、その後かなり長い年月を経てもしっかり甦り自覚され回答したものと考えられる。兄弟姉妹の少なくなった現代において、自分より小さな子どもを抱きあやすという機会はなかなか得られない。そのような中でも幼い子ども時代に、赤ちゃんを抱くことができる体験は貴重である。大人の方が子どもが子どもを抱くのは危ないからと避けがちであるが、見守りながらも積極的に抱く機会を与えることが重要であると考えられる。

### 4.2. 抱き・あやす体験

女子高校生の体験後の自由記述のレポートの内容は、3つのカテゴリ【抱く(55)】【あやす(20)】【学び(11)】に分類できたので、それぞれについて考察する。

#### (1)抱くことについて

【抱く】の中で最も多い《人形(40)》に関しては、<重い(20)>と感じている学生が最も多かった。人が重いと感じる重さは、各個人で異なるであろうが、健康で体力のある女子高校生が、人の出生時体重の3kgの赤ちゃん人形を重いと感じたことは興味深いことである。女子高校生は、人形だから軽いというイメージを持っていたのかもしれないし、赤ちゃんとは小さく

抱く(56)	赤ちゃん人形(41)	かわいい(12)	抱っこしている とかわいいな と思った	とてもかわいく 楽しかった	人形なのにど もリアルで、 赤ちゃん感 があった	ほんとうに子 どもがきた かな	見ていたらか わいくて癒され る	恥ずかしかつ た	とてもかわい い	ずっと見てい られる	赤ちゃんを抱 いていると癒さ れるし救しい なと思った	幸せな気分 になった	本当の赤ちゃ んだらわか わいいな な	久しぶりに 抱っこして懐 かしかった	赤ちゃんが欲 しいと思った	
	リアル感(9)		首座っていない けど本当のあ たらちゃんだつ たた癒されるか もしれない	人形なのにど もリアルで、 赤ちゃん感 があった	本物の赤ちゃ んみたいで重 さがあったリア ル	抱いたとき頭 が重く胸が疲 れた	人形だから泣 かないしごく 良い子	人形だから難 しかった。	意外と人形な のにリアルな 重さだった	手足がブンブ ンしてかわい い	人形だから泣 いたりしないの で 楽だと思った					
	重い(20)		意外と重い	重くてびっくり	3kgが思ってい るより重く胸が 疲れた	抱いたとき頭 が重く胸が疲 れた	抱いたとき頭 が重く胸が疲 れた	思った以上に 重かった	思ったよ り少し重くて びっくりした	おもっている より重く抱い ているのが大変 だった	重さと同じく いの赤ちゃん を抱っこしてい るのを思い出 した	重たくてずつ と抱っこしてい るのはしんどい		手首が痛く なった	首を支えるの がとても重い	
	抱き方(8)		もっと軽いと 思っていたの に意外と重い なと思った	2分間しか抱 いていないの にとても重く感 じた	思った以上に 重かった重く て驚いた	やっぱり赤 ちゃんは重く て	絶対楽とし たらいけない と思った	人形だから難 しかった。	持っている 首が折れそう に案じた	首が据わっ ていない赤ちゃ んを抱っこす るのは怖くて できない						
	母親の気持ち(7)		元気に育っ てほしい、早く 話したいとい う願望も母親 の気持ちなん だろうと思っ た	家事しながら ずっと抱っこ やおんぶして いるお母さん はずっと抱っ てると思っ た	お母さんは朝 夜に関わらず ずっと抱っこ してると思っ た	お母さんの大 変さが分かっ た	母親はすごい	お母さんの大 変さが分かっ た	この重さを感 じながら買い物 選択など家事 をする母はえ らいと思う	母は家事と育 児を両立しか らだに負担だ と思った。						
あやす(19)	言葉かけ(14)	難しい(12)	言葉がうる しいのは大変 だ	あまり言葉を 掛けられな かった	あやし方人形 なのか難し かった	ママにならな いとわからな い	ママにならな いとわからな い	慣れていない のでどうしたら よいかわか らない	赤ちゃんに声 をかけるのが 難しいしや べつに何をし ようか迷っ た	赤ちゃんを抱 いたことがな くどうあやし てどう語り たいかわか ない	母と赤ちゃん 対1だと相手 がいないから つらいので つや青尻ノイ ローゼになる	どのよう なことをはな しかわか らない	あやし方わ か らない	赤ちゃんを抱 きあやすのは 全然できない し難しい		
	ゆらす(5)	話しかける(2)	赤ちゃんに 通じることが わかってほ しい	話しかけても 返事ないけど 話しかけて みよう。	自然と体が動 いた	偽物とわかっ ていても自然 と揺れてしま った	偽物とわかっ ていても自然 と揺れてしま った	抱くと自然に ズムをとり動 いてしまう。								
学び(10)	将来のこと(7)		将来の自分 ができてから この経験を 生かしたい	いろいろな ことを思っ た	産婦人科や小 児科など小 さい子に 関わる 看護師にな りたいと思 った	赤ちゃんの感 性を育てるに は感情豊かに もつことだ	赤ちゃんの感 性を育てるに は感情豊かに もつことだ	かわいけれど 育てるとな ると大変	しっかりした 大人に育っ てあげられ ると少し不安 になった							
	体験の肯定(3)		こういう機会 がないので勉 強になった	普段抱っこで きよかったです	母親の気持ち が伝わってよ かった	母親の気持ち が伝わってよ かった	母親の気持ち が伝わってよ かった									

表3		抱きあやす仲間を見て思ったこと	
カテゴリ	サブカテゴリ	内容	
抱く 31	抱き方 12	弟や妹がいる子は抱き方が分かっている	
		抱き方がとても上手(2)	
	それぞれ抱き方が違っていた(3)		
		抱き方がばらばら	
		持ち方が危ない	
		首を支えてあげないといけない(2)	
		赤ちゃんの首が落ちないようにしていた	
		優しく首元を支えていた	
	思い 10	抱くのが上手な人が多い(2)	
		抱くのが怖かった	
		大体みんな抱っこできていた	
		抱いているとお母さんほい	
		少し抱きなれていた	
		抱くのに慣れていないからどうしてよいかわからない	
		抱く機会がないのでぎこちない	
		しっかり抱いている	
		みんなは抱いたことがあるのかぎこちなくない	
	重い 9	すごく重そうにしている	
		けっこう重そう(5)	
		意外と重い	
		重そうで持つのが大変	
		肩こりそう	
あやす 15	揺らす 9	自然と体が揺れていた	
		抱いてゆらゆらしてあやしている人が多い	
		ちょっと揺らしたりしている(2)	
		自然と身体が動く人や直立立ちの人がいる	
		赤ちゃんをゆらしてあかちゃんのことを考えている	
		リズムとっている	
		上下に揺らしている	
		小刻みに揺れていた	
	声(話)かける 4	スムーズに声をかけていた	
		声をかける人もいてよいことだ	
		笑顔で声かけていた	
		優しい顔で話しかけていた	
	思い 2	あやし方がそれぞれ違う	
		泣いたりするからあやすのは大変	
母感・ママ友 10		お母さん感が出て楽しそう	
		ママ感がでて真ん中に集まっている	
		お母さんみたい(2)	
		良いお母さんになれそう	
		ママ友になったような感じ	
		ママ友感がある	
		ママ友できたら楽しそう	
	恥ずかしくてママになりきれない		
	母親同士の会話も楽しかった		
楽しい 8		2人で楽しそう(3)	
		楽しい	
		楽しそうで幸せそう	
		楽しそうにあやしている	
		楽しそうだけど本当の赤ちゃんだったら大変	
	友人と赤ちゃんを抱く大変さんを共有あって楽しい		
笑顔 6		みんな笑顔だった	
		赤ちゃんを抱くと笑顔になる	
		癒し	
		微笑ましい	
	笑顔で楽しそうだった(2)		
その他 4		子どもを見捨てないでしっかり育てあげてほしい	
		無知なことが多く戸惑う	
		抱いている友達を見ると少し変な感じ	
		意外と2分間が長く感じられた	

軽いものと潜在的に思っていたのかもしれない。いずれにしても 3kg の重さの赤ちゃん人形を抱くという体験により、そのギャップを体感し、赤ちゃんを理解する第一歩につながったと思われる。赤ちゃん人形の重さが、女子高校生にリアル感を引き出したといえる。

また、赤ちゃんを抱く重さに耐えながら 2 分間抱き続け、さらにあやすという課題が<重い>につながったかもしれない。次に、《抱き方(7)》については、「どのように持ってよいかわからない」とか、「定期的に持ち替えるべきだ」「首が緩いのでそこを気を付けて持った」などがあつた。また、「絶対落としてはいけない」などもあり、自分で試行錯誤しながら慎重に抱いていたことがわかった。さらに、抱くことにより、《母親(7)》の「お母さんは朝夜に関わらずずっと抱っこしていると思うとすごい。」や、「母は、家事と育児を両立し、からだに負担だと思った。」などの育児のイメージや、「元気に育てほしい。早くお話ししたいという願望も母親の気持ちなんだろうと思った。」という母親の持つ思いにまで馳せ至ることがわかった。

菱田は、心理臨床における人形の役割は、イメージを表現するための媒体であり道具であり、人形は仏像などとは異なり「私」の物として弄ばれることにより、「私」であつて「私」でないものという特徴がある。つまり人形は「私」の苦しみを代わりに引き受け、「私」にとって受け入れられないものを流し去るという役割を担っているという[7]。今回、赤ちゃん人形を抱いた女子高校生は、「私」と対面することを通して母性意識が芽生えたといえる。

## (2)あやすについて

【あやす】において最も多く抽出された《(声・言葉・話)かける(15)》の内容には、ポジティブなく話かける(2)>とネガティブなくわからない・できない(12)>が抽出された。言葉をまだ持たない赤ちゃんをあやすために、声をかけたり話しかけることは、難しいとか、できないが多かつた。まだ十分な言葉を持たない乳児への語りかけについて、人形だけだけにさらに難しかったかもしれない。平成 30 年から適用されている改訂「保育所保育指針」によると、乳児保育に関わるねらい及び内容のなかで、社会的発達に関する視点「イ 身近な人と気持ちが通じ合う」では、「体の動きや表情、発声、喃語などを優しく受け止めてもらい、保育士等とのやり取りを楽しむ」や「保育士等による語りかけや歌いかけ、発声や喃語などへの応答を通じて言葉の理解や発語の意欲が育つ」とある[8]。語りかけや歌いかけは、子どもに人として何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育み人と関わる力の基盤を培うのである。女子高校生の回答に、「赤ちゃんに通じるかわからないけど、伝わってほしい」「話しかけても返事してくれないけどなぜか話しかけてしまう」の 2 件があつた。それらは声をかけるや語りか

ける以前に、赤ちゃんと一体化しようとするポジティブな意識を持つ重要性を考えさせられる回答である。

また、女子高校生の【あやす】方法には、赤ちゃん人形を抱っこすると、自然に<ゆらす(9)>歩く者が多かつた。私たちは、赤ちゃんを座って抱いている時よりも、赤ちゃんを抱っこして揺らしたり歩いたりする方が、赤ちゃんは落ち着き、泣き止んで眠りやすいことを経験的に知っている。女子高校生も赤ちゃんを<ゆらす>歩くということを経験的に知っていたのか、それが仲間に連鎖し多くの生徒が<ゆらす>歩く行為へと広がった。理化学研究所のホームページの報道発表資料(2013)から、母親が座って抱っこから、抱っこして歩くと、赤ちゃんは数秒以内で動きが少なくなり泣き止み心拍数が顕著に低下することや、赤ちゃんは、抱っこされると自らの体を丸めて運ばれやすい体勢をとる輸送反応が生じ、親の子育てに協力してくれることを明らかにしている[9]。抱かれる側の赤ちゃんが本能的に持っているその仕組みについて今回授業で説明はしていないのに、女子高校生の多くが、抱くとすぐに<ゆらす>歩く行為が見られた。不思議なくらいみんな抱くとゆらし歩くのである。抱く側においても本能的な仕組み(危険の回避など)があるのかもしれないと考えさせられた。

## 4.3. 抱きあやす体験を客観視した場合

体験学習を主体的に行つた場合とは異なり、見学の場合は、自由記述の意味ある語彙数は 85 から 74 と少なくなり、また、その意味内容は浅く表面的なものであつた。全語彙数 74 の意味内容を抽出すると、6 つのカテゴリ【抱く(31)】【あやす(15)】【楽しい(8)】【笑顔(8)】【母・ママ感(10)】【その他(4)】に分類できた。

【抱く】では、みんな赤ちゃん人形は重そうだと感じながらも、最も<抱き方(12)>に関心があり、他人の抱き方の上手下手が気になるようであつた。また、【あやす】方法は、<揺らす(9)><声をかける(4)>るが、抱っこしても、ひとりでは赤ちゃんに話しかけることが難しいので、仲間のところへ赤ちゃんを抱いて寄り集まると、緊張が解け【笑顔】となり場が盛り上がり、抱っこ体験は【楽しい】ものとなっている。また、それが、【ママ友】の始まりであることを感じた者もいた。

## 4.4. シュミレーション教育の効果

シュミレーション教育は、1990 年代、その先進国である米国の医療事故の増加から、また日本においても医療安全対策に 대응するものとして発展してきた[10]。昨今の看護基礎教育におけるシュミレーション教育は、学習者が能動的に学習に向かう学習、アクティブラーニングのひとつとして、従来型の講義中心ではなくて、「理解して行動に移せる」ところまで看護実践能力を

引き上げることを目的に実施されている[11]。本授業では、適切な赤ちゃんの抱き方を身につけるというシュミレーショントレーニングが最大の目的ではなく、体験後の振り返りを重視することを目的とした。

シュミレーションの教育的意義は、失敗を恐れることなく安全な環境のもとで、この体験が「自分に関係がある」という感覚を育て、状況に対応して対処した学びの記憶が重要となる。その体験と向き合い、自分の課題への心構えや、物の見方、意思決定を自問自答することにあるといわれる。阿部は、シュミレーション教育の基盤は、Kolbらの提唱する経験学習理論であるとする。学習者が経験と振り返りを反復し知識と技術を定着させるのである[11]。

今回、本研究の対象となった女子高校生は、2分間の人形を抱くという体験中、落ち着きのない態度がみられたり、赤ちゃん人形を手荒に扱う様子もみられ、学びは十分なものになるとは思えなかった。シュミレーションが効果的に学習できない理由に、通常より注意深くなったり、本物でないという意識からゲーム感覚で臨んだりぞんざいに振舞うなどがあるという[12]。皮膚の硬い赤ちゃん人形のシュミレータは生きた赤ちゃんではない。どこまでシュミレーション教育の効果を担えるのかについて、これまでも疑問を持っていた。しかし、自由記述の内容を分析した結果、皮膚の硬い赤ちゃん人形一体にもシュミレーション教育の効果はあったと考える。それは、【学び】の内容《体験の肯定》と《将来のこと》からである。《体験の肯定》では、「普段抱っこできないのにできてよかった」や「こういう機会がないので勉強になった」「母親の気持ちになれてよかった」という回答があり、体験授業を否定的にとらえる生徒は誰ひとりいなかった。また、《将来のこと》では、「母親になって育てられるか不安になった」がある一方で、「しっかりした大人に育て上げられるように頑張る」や「看護師になったら、産婦人科や小児科等小さい子に関わる看護師になりたいと思った」などがあった。さらに「赤ちゃんの感性を育てるために、感情豊かに持つことが大切だと思った」の記述もみられ、本授業が意図する目的も達したのではないかと考える。

## 5. まとめ

今回、女子高校生への授業を通して、抱き慣れていない赤ちゃんを「抱く」とは、そう単純で容易いことではないことと、抱っこする側は、落とさないようにと全身を緊張させ、抱き方に神経が集中することがわかった。そして、赤ちゃんを「あやす」には、歩いたり揺らすことはできても、語りかけることは難しいこともわかった。また、シュミレータが本物とかけ離れた赤ちゃん人形でも、見つめたり抱いたりしていくう

ち次第に人形と一体化し、抱くとかわいいと感じ、さらに母性意識を芽生えさせる一助となるということもわかった。現代の若者である女子高校生の子ども観を知ることでもでき、今後の小児看護学教育への示唆が得られたと考える。また、先述した看護学生が、臨床の場の受持ち児を抱くことを頑なに拒んだ理由はいまだよくわからないが、今回の研究を通して、赤ちゃんを「抱っこ」ということは「私」と向き合うことでもあると再認識することができた。

## 文 献

- [1] 厚生労働省：平成 27 年版 厚生労働白書 第 1 部 人口減少社会を考える 序章人口減少の見通しとその影響  
<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/15>  
(参照 2019-2-10)
- [2] 片山知子・美頭華子・飯沼里美他：カンガルーケアの愛着形成に及ぼす有効性 母親の対児感情の変化と意識調査から。岐阜県母性衛生学会雑誌 22, 71-74 (1998)
- [3] 竹澤博美・相守節子・牧野雅美他：「抱きしめる」という効果。新田塚医療福祉センター雑誌 4(1), 17-18 (2007)
- [4] 汐見他：乳幼児における『抱き』をめぐる『おかしさ』についての調査-保育園の 0 歳児クラス対象に-。第 46 回日本小児保健学会(1999)
- [5] 文部科学省：平成 20 年 学士課程教育の構築に向けて (中央教育審議会答申)  
[www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo/0/toushin/121706\\_7.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo/0/toushin/121706_7.htm) (参照 2019-2-10)
- [6] 厚生労働省：平成 27 年版 厚生労働白書 第 1 部 人口減少社会を考える 第 3 節 人口減少社会を取り巻く背景・現状と国民意識 図表 1-3-36, 図表 1-3-52,  
<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/15>  
(参照 2019-2-10)
- [7] 菱田一仁：心理診療における人形の存在意義と役割に関する研究-人形遊びの心理臨床-。京都大学学位論文：博士(教育学)(2015)  
<http://doi.org/10.14989/doctor.k19215>  
(参照 2019-1-20)
- [8] 全国保育士会：改訂保育所保育指針・解説を読む 全国社会福祉協議会,29-31(2018)
- [9] 理研脳科学総合研究センター：抱っこして歩くと赤ちゃんがリラックスする仕組みの一端を解明-経験側を科学的に証明、子育ての新たな指針に、報道発表資料,2013-4-19.  
[http://www.riken.jp/pr/press/2013/20130419\\_2/](http://www.riken.jp/pr/press/2013/20130419_2/)  
(参照 2019-3-20)

- [10] 葛場美那・藤原正恵：我が国の看護基礎教育におけるシミュレーション教育の現状とその効果に関する文献検討. 大阪青山大学看護学ジャーナル 1, 9-20 (2017)
- [11] 阿部幸恵: 医療におけるシミュレーション教育. 日集中医誌 23, 13-20 (2016)
- [12] 片田裕子・八塚美樹 看護領域におけるシミュレーション教育の必要性. 富山大学看護学会誌 6(2), 65-71 (2007)

---

論文集「人と環境」Vol. 12 (2019)  
大阪信愛生命環境総合研究所編

---